

生き活きまちづくりレポート



市議会議員 つつ木みゆき



9月議会 報告

つつ木みゆきの一般質問

避難所で女性が直面する問題

避難所で女性が直面する問題として性被害、性暴力の防止について、また安全に避難できる体制について質問しました。

これだけ、災害の多い国であるにも関わらず日本の避難所の環境は1955年阪神淡路大震災から変わっていないのが実情です。場合によっては長期滞在せざるを得ない場所でもある避難所です。弱い立場の女性や子どもが性被害や性暴力の被害者にならないためにはまず、プライベートスペースの不足やプライバシーの欠如などの基本的なことに目をむけ、女性や子どもの心身の健康を守るため相談窓口を開設すること、安心安全に配慮した女性専用トイレの設置に努める必要があります。

問 海老名市では避難所における女性スタッフは全体の何割ほどいるのか。

答 (市長室次長) 避難所開設チームの約3分の1が女性となっている。避難所の運営に女性が参加することで、女性の意見が運営に反映できるようにつとめている。

問 海老名市には56名の女性防火推進員がいて災害の発生を未然に防ぐために防火、防災に関する啓発、広報活動を行っています。防災時避難所での支援について知識、技術など習得するための研修会など積極的に行われているのか。これらの方々を中心に避難所の運

営を行っていくような体制は取られているのか。

答 (消防本部長) 女性防火推進員は各自治体から推薦。避難所の運営は、女性防火推進員が中心になり運営を行う体制は取れていない。しかし女性防火推進員は年間を通し消火訓練や、普通救命講習の受講、避難所運営に関わるシュミレーション訓練など経験しており避難所運営の際には力になると考える。女性が直面する問題については非常に繊細でデリケートな問題であることから年間カリキュラムについて研究する。

日本には避難しているんだから我慢しなきゃというような風潮があります、非日常だからこそストレスを溜めず平常心を保てるような環境をつくる発想の転換が必要です。そうしていかなければ日本の劣悪な避難所の環境は変わらないと思います。避難生活であろうとそこにあるのは毎日の生活そのものです。

環境破壊が自然災害や感染症を引き起こしています。海老名市も南部の田園地帯が大きな倉庫や駐車場に変わり工業地帯のような風景になっていて、これ以上環境を壊さないでほしいという地域の声もあります。

ちょっと都会、ちょっと田舎の魅力ある海老名市であるために引き続き検討していただくことを要望しました。

安心してあずけられる病児保育を

9月の一般会計補正予算で病児保育事業費として1650万円が計上されました。

神奈川ネットワーク運動海老名でも再三にわたり要望してきた事業なだけにやっと実施されるのかと喜んでいましたが、蓋を開けてみると納得できない事が多々ありました。

「海老名初の病児保育開設」と神奈川新聞で大々的に掲載され、地元で外食や福祉事業を展開する企業が整備、運営を行うとありました。

そもそも「第2期海老名市子ども、子育て支援事業計画」では2020年～2024年までの5年間で病児保育の計画期間として実施検討していくとあり、医師などの協力が不可欠なため医師会など関係機関と必要な調整を図るとあります。にも関わらずなぜ急にこの事業が病児保育の実績のないこの企業で決まったのか、そして現在病後児保育として運営している、子どもセンターにある「いちごルーム」と病児保育を一緒にするという計画もあるということですが、そのことについても明確な説明はありませんでした。

方向性も、病児と病後児保育がどう整備されるのかも分からないまま見切り発車するような事業には、残念ながら反対せざるを得ません。

病児保育は働く親にとっては最後の砦です、病気の子どもを置いて働きに出なければならないことは親にとっては大変不安でつらいことです。親の不安が少しでも解消できるよう、病児と病後児は切り離すこと、専門医である小児科との連携を明確にすることを強く要望して反対討論を行いました。

2019年度決算 いちごの会派として反対

- ・図書館周辺を文化ゾーンとする基本構想の公開について
公開されていないので反対。
- ・同性パートナーシップ制度の導入について
導入に消極的なため反対。
- ・ゴミの減量化施策について
収集作業員が足りず一般事務職員を動員してまで実施したので反対。
- ・公園の集約化と再編について
維持管理費がかかるため小さな公園は売り払い大きな公園に集約することに反対。

